石櫻新聞

平成8年9月7日発行
第94号
発行　岩手高等学校
盛岡市長田町
印刷　山口北州印刷㈱

合言葉は「70」

石桜祭

今年も例年同様、生徒会主体の一大行事、石桜祭が九月七・八日にかけて盛大に開催される。また、今年は本校が創立七十年を迎えるため、その記念式典が七日の石桜祭開会式に先だって挙行される。

創立七十年記念式典挙行

初代理事長である三田義正先生が岩手中・高等学校の前身である岩手中学を創立してから七十年の歳月が経った。それを記念して挙行される式典は理事長式辞、永年勤続表彰、生徒宣誓といった格式高い内容で行われる。今日に至るまでの七十年の足どりを振り返る大切な式典である。厳粛に受け止め更なる母校の発展を祈念したい。

※感謝状を受ける先生方

以前に永年勤続表彰を受けられ、その後も本校の発展に力を尽くしていただいた先生方です。（敬称略）

山中　順三
遠藤　貫中
西在家　寛
池口　杜孝
吉田長作
足沢　至
高橋　精四郎
中村　嘉明
村上　照五郎
佐羽内　慶祐
高橋　三郎

※表彰を受ける先生方

永年勤続…二十五年以上の長きにわたって本校に勤務なさっている先生方です。（敬称略）

中館　脩悦
山岸　道利
菊地　治雄
菊池　軍次
遠藤　清安
小畑　勝行
久保　英三郎
高橋　一義
青木　文一
井藤　博
本館　公治
東館　専治

華やかなブラスの夕べ

吹奏楽部、定期演奏会

今年で十八回目を迎える恒例の吹奏学部定期演奏会が、八月一日岩手県民会館で行われた。

演奏会は三部構成となっており、一部はクラシック、二部はマーチング、三部はポップスという構成であった。午後六時三十分に幕が上がり第一部が始まった。曲目は、今年のコンクールの課題曲「はるか大地」と自由曲「アルヴァマー序曲」だった。コンクールとともにすばらしい演奏であった。十五分の休憩の後、第二部が始まった。マーチングである。広いステージ上で素晴らしいフォーメーションが披露された。曲も打楽器の音量がやや大きいものの聞き応えがあった。特に二曲目はVAN・HALENの曲をアレンジしたもので凄い迫力であった。第三部はポップスステージで、耳になじみのある楽曲が演奏された。料理の鉄人のテーマである「バックドラフト」、「古畑任三郎のテーマ」などである。三曲目には、顧問である川村康二先生がサックスソロを披露され、詰めかけた観客から盛大な拍手を受けた。最後に、顧問の菊地治雄先生と川村康二先生に花束が贈られ定演は幕を閉じた。来年の定演は八月五日に行われる予定。

石桜祭の成功へ向けて

石桜祭は全体的にかなり盛り上がるものになるだろう。記念文化講演をなさる牛越先生は本校の卒業生であり、普段は盛岡大学で教員を目指す学生に音楽を教えている。石桜祭の新たな試みとしては開会式で、ブラスバンド部のステージ演奏と各文化部のプレゼンテーションが行われる。

石桜祭のイベントとして生徒会執行部の主催で行われるカラオケ大会は、岩高屈指ののど自慢たちが集結し最高のパフォーマンスを見せてくれるだろう。また、最近活躍が著しい各文化部も一年間の研究の成果を展示、発表する。恒例であるブラスバンド部の演奏会、物理部による超電導カタパルト・落下エネルギーの研究発表、その他、絵画部、書道部等の作品展示、映画部の映画上映など見所がたくさんある。文化部以外でも一部の運動部の出し物、各学級の飲食店などが出店される。このほか、今年は何と言っても2A対2Eの間で行われる二十四時間ソフトボール大会がある。文字通り二十四時間ぶっ続けで、ソフトボールの試合を行う。体力的・精神的にとても大変であるが是非頑張ってやり通してほしいものである。

今年のテーマ「70」は本校の創立七十年にちなんだものである。各文化部の展示、発表がテーマに対してどのように取り組んでいるかが注目される。また文化部以外の運動部やクラスでの参加、展示は石桜祭をどう盛り上げてくれるのか期待したい。最後になるが石桜祭は生徒一人一人が作り上げ成功させるものである。良くも悪くも私たち自身の力にかかっていることを忘れないようにしよう。

提言

文化委員長　井上　尚洋

今年度の岩手高校文化祭「石桜祭」がいよいよ開幕しました。

今年の石桜祭は創立七十年ということでこれまでにない盛り上がりをみせています。特に生徒会では意欲的な活動がされており「アイドルをよぼう！」という企画は「呼んだ後どーすんじゃい」ということを思わないでもありませんでしたが、私個人としては、○○ガールズや、シェ○プ○ップガー○ズ（ギ○○リガールズでもよかったが…）は呼んでほしい企画の一つでした。この企画は失敗に終わってしまったのですが、それに替わるイベント「賞品争奪カラオケ大会」というX－2000を使った壮大な企画が用意されているという事です。他にも生徒会は、企画を推進中ですのでみなさん期待していてください。

生徒会だけでなくクラブの活動も、ブラスバンド部の演奏会、絵画部の作品展示・装飾品の無料配布、化学部による人民一号・金日成号の打ち上げ、映画部による映画上映、物理部による最先端の実験など、どの部も趣向をこらした展示をしてくれる予定です。ぜひ期待に応えてくれるものであるように望みます。

今年の石桜祭は、ひとつ味ちがうものになるはずです。そのためにも、岩手高校の生徒としての文化祭に臨む態度というか心構えを持つことが必要です。学級で飲食店などをやるにしても、一部の生徒だけでなく、学級一丸となって事を成し遂げるようにしてもらいたいと思います。クラブの展示についても同じ事が言えると思います。先輩、後輩が手を取り合ってクラブの活動を成功させてくれるように望みます。

文化祭というのは学校全体が一つの方向性を持ち、突き進んでいく行事です。余裕を持って準備し他校の文化祭に負けぬような岩高独自の岩高らしい「石桜祭」を、全面に押し出してほしいものです。最後に、皆さんの力で「石桜祭」を成功させましょう。

釣って泳いで

岩手中学の総勢三十六名は担任の中山・藤原・小泉先生の統導のもと七月十六・十七日の二日間、宮古・中の浜キャンプ場でサマーキャンプを行った。

釣果は…ボウズ？

1日目、バスで約2時間かけてキャンプ場に行き、手始めにテントに毛布を敷くなどしてキャンプの準備をした。その後昼食をとり、みんなで海で泳いだ。その日の夕食は協力し合ってがんばって作った。出来上がったカレーと焼き肉をみんなはおいしく食べた。

2日目はカップラーメンでスタートした。この日は雲空で、十時ごろに降り出した雨はお昼には止んだものの、一時にはバスに乗り込み帰ってきた。この2日間はとても楽しかった。

石桜祭　創立七十年記念講演

講師　新3回生　牛越　恂先生（盛岡大学教授）

演題　「療法的音楽」

講師紹介

岩手大学卒業後、岩手女子高を経て昭和六十年より盛岡大学に勤務し現在に至る。専門は音楽、盛岡大学付属幼稚園園長兼任。

視点

石割桜

▼漢文や倫理の時間、孔子と云う人物が採上げられる。学んでは習いて悦び、朋の来訪を楽しみ、仁というヒューマニズムを強調した人という。チョー真面目なオヤヂという感じだ。井上靖『孔子』には怒ると飯も食わないという記述があるようで、これはおっかない。▼だが、面白い逸話もある。孔子の頭には穴ぼこがあり、水が溜められたというのだ。この逸話は、孔（あな）の字から発想されたのだろう。二メートルを超す文字通り大人だったという説もある。昨秋放映された台湾の漫画家、鄭問のデザインによるアニメの孔子も巨人だった。では周時代の政治の秘密を求める知識欲の怪物として、諸星の装画による酒見賢一『陋巷に在り』では悪霊を払う顔をした怪力のシャーマンとして、孔子が描かれている。台湾に住む、七十数代の子孫がこうした孔子像をどう見るか、興味深い。▼この魅力的な孔子自身が生涯を回顧した断章がある。「吾十有五にして学に志す。……七十にして心の欲するところに従へども、矩を踰えず」本校も創立七十年。学校という器の中身の一人一人は自由に行動しながら、誰もモラルを逸脱しない従心の境地に至りたいものである。

祝

創立７０年　岩手中・高等学校

母校の更なる発展と後輩諸君の活躍を期待し、応援します。

石桜同窓会　会長　赤坂俊夫

岩手中・高等学校創立70年を迎える

平成八年をもって我が岩手中・高等学校は創立七十年をむかえる。大正・昭和・平成と三つの時代を経てなお今に伝わる伝統と失われつつあるものとが混沌とする中で、我々は新しい歴史と母校のあるべき姿を作り上げて行かねばならない。自分たちの学校の歴史を知ることはその第一歩ではないだろうか。

岩手の地に人材育成を

大正十五年四月、岩手中学が大沢川原の地に創立されてから七十年にわたる歳月が刻まれた。

この間における我が国の情勢は戦争への突入、敗戦、戦後の混沌、そして帝国主義から民主主義へと社会の情勢や人々の意識は変動している。そのような時代の流れの中でも、創立当初掲げられた「積慶・重暉・養正」の三大校是は変わることなく一貫して継承顕現され、また石割桜に象徴される「石桜精神」の発揚はいよいよ輝きを増し、岩手中・高等学校の存立の意義を高からしめ不抜のものとしていることは自他共に認めるところであり、現在までに受け継がれてきているのである。

創立者三田義正先生の日本の将来のためには人格形成が大切だという教育方針のもとに、質実・剛健を建学の精神として創立された本校は、情熱を持って理想の実現を目指し、数多くの有為の人材を輩出して、名門岩手中・高等学校の現在の基礎を作り上げた。

歴史に恥じぬ活動を

現在の岩手中・高等学校は七十年の歴史に恥じないほどの活気に満ちている。過去三年間の大学合格者数は、平成六年度一八四人、七年度一六七人、八年度二一〇人という実績を上げ、主な大学には慶応、早稲田、法政の合格者も現れるという高い水準になりつつある。部活動においては、テニス部の平成六年度と八年度の高総体団体優勝を筆頭にソフトテニス部のインターハイ連続出場、水泳部の平成六年度県民体200M平泳ぎ優勝、県高総体1500M自由型優勝、とインターハイ出場や国民体育大会出場といった数々の実績を上げている。文化部では物理部が超伝導の継続的な研究に取り組んでおり、一九九四年学生科学賞最優秀賞受賞、第1回科学技術体験活動アイデアコンテスト科学技術庁長官賞受賞。今年の三月にはアメリカへ渡りNSTA（ナショナル・サイエンス・ティーチャーズ・アソシエーション）に参加し各方面から注目を浴びている。このような成績を修め文武両道の精神で岩手中・高等学校の歴史に名誉を刻んでいる。この栄光を保持し、より発展させるため、我々の更なる努力が求められる。

建学の精神を忘れずに

創立から七十年という時が経つにつれて建学の精神に対する意識が薄まりつつある現状で、勉強・クラブ・生活態度などの面で頑張っているという生徒はどれほどいるであろうか。七十年をきっかけにと、そう簡単にはいかないかもしれないが、建学の精神を忘れずにこれからの歴史を築いていかねばならないだろう。

岩手山頂に碑石を建立

岩手高校では高校二年生を対象に、毎年、岩手山に登る学校行事がある。これは本校の校旗が昭和二年九月二日に制定され、三日後の九月五日に岩手山頂で校旗樹立式が行われたことと後の記念碑建立に由来するもので、当時行った登山を今も伝統として続けている。校旗樹立記念碑は、岩手山頂での校旗樹立を永久に記念するために昭和四年九月十一日に建立された。碑石には「皇風永扇校運隆昌」という文字が刻まれている。これは、初代校長の鈴木卓苗氏が校旗樹立式で「校旗樹立之辞」という祈願文を奉読したことに由来する。奉読文は「（前略）岩手山々霊の冥祐を仰ぎ我校の文運は日に月に隆昌にして其業績は以て永く国家人民に貢献する所にあらむ、又庶幾くは我校の堅実雄偉なること岩手山の如くあらむことを」というものであった。その校旗は学校の象徴である。校旗を県下最高峰の霊山に樹立したのは、本校の前途がこの岩手山のようにますます堂々たるものになるようにとの願いからであったことから、このような碑文となった。現在もこの碑石は岩手山頂奥宮前にあり、この碑石からも歴史の奥深さを感じる。

本校のあるべき姿

岩手中・高校学校長
池口杜孝

本校が創立以来七十年の記念すべき年を迎え、新たな発展を期して全校一致努力していることは、誠に喜ばしいことである。

幾度となく繰り返された指導要領の改訂はもとより、時勢の変遷により授業の形や学校生活の諸相は変わったかも知れないが、建学の精神である社会に役立つ有為な人材の育成を目指して、積慶・重暉・養正の旗印のもと、質実剛健の気風を尊ぶ、石桜精神の体得者の育成は、今日も変わることなく行なわれているのであり、未来永劫に続くものである。そして今こそ中高一貫教育の特色を生かし、生徒は伸び伸びと、各自の目標に合わせて、進学にクラブ活動に全力を傾注できるようにしなければならない。そこに必要なものは自主独立の気風であり、自ら計画し、自己の行動を律し、正道を踏んで誤らず、日々努力して止まない姿勢であり、それがとりもなおさず、石桜精神である。

人の力をあてにし、日和見主義の昨今の姿を捨てよ。再び本校創立当時の初心に帰り、創立者の心をわが心とせよ。それが達成された時、輝かしい本校の姿を見るであろう。

■本校のあゆみ■

大正			
15	2	11	三田義正中学校設立を決意、この日を創立記念日とする。
	4	19	財団法人岩手奨学会設立、岩手中学校の開校を許可され三田義正初代理事長に就任。
	4	22	第一回入学式挙行。第一学年一〇六名入学。
	4	24	盛岡尋常高等小学校分教場の一部を借り受け授業を開始する。
	5	27	盛岡市大沢川原小路に移転。
	6	8	鈴木卓苗初代校長に就任。
昭和			
3	1	23	校歌の楽譜完成
4	9	11	校旗樹立記念碑を岩手山頂奥宮前に建立。
7	7	8	栃内曹次郎第二代校長に就任。
8	3	31	佐々木哲郎第三代学校長に就任。
10	12	31	三田義正逝去
11	1	1	三田義一第二代理事長に就任。
13	2	12	盛岡市仁王田圃の新校舎に移転。
	10	30	新校舎落成式挙行。
22	3	27	学制改革に伴い新制岩手中学校に移行申請。
23	2	26	新制岩手高等学校設立を認可される。
25	3	25	石桜新聞創刊。
26	11	3	創立25年記念式を挙行。
29	10	13	石桜図書館開館。
	10	30	山中順三第四代校長に就任。
30	9	30	岩手高等学校プール竣工。
34	1	1	滝沢グランド借り受ける。
40	10	1	住居表示変更に関する法律により本校所在地盛岡市長田町七番六〇号となる。
45	11	24	次年度より岩手中学校生徒募集停止を決定。
48	7	3	遠藤貫中第五代校長に就任。
	12	26	岩手中学校生徒募集を次年度より再会する事を決定。
51	11	3	創立50年記念式典を挙行。
52	4	15	校舎焼失。
53	8	20	新校舎竣工。
56	5	25	三田義清第三代理事長に就任。
60	5	8	第三代理事長三田清逝去、学校長遠藤貫中理事長代行を兼任。
61	4	3	三田義之第四代理事長に就任。
62	4	15	妙泉寺山林、同山荘を取得。
	12	19	新校舎・体育館・プール竣工。
平成			
4	4	1	西在家寛第六代校長に就任。
5	9	28	滝沢グランド造成工事完成。
7	4	1	池口杜孝第七代校長に就任。
8	9	7	創立七十年記念式典を挙行。

ユニホーム製造　販売
制服の店　いさごだ
本店　盛岡市肴町 4 − 26
☎0196 (22) 7126(代)
支店　盛岡市月ケ丘 1 −29−17
☎0196 (41) 5805

Sportshop
あなたの記録更新に役立つスポーツ品
藤沢体育堂
本店/盛岡市大通3丁目2 ☎0196(23)1435

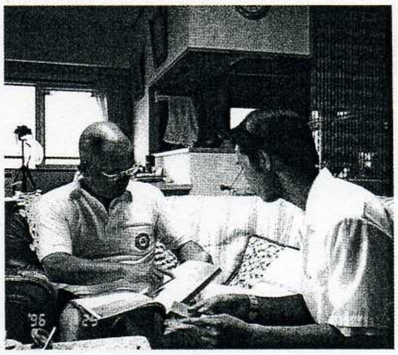
ギョーザのおいしい店
中華料理
としちゃん
梨木町一ノ十一
51−二〇九六
この広告を持参の方、麺類、50円引です。

(有)
福田パン

盛岡市長田町12 − 11
TEL (0196)22−5896
長田町・矢巾町・本町・ロンドン

語りつがれる建学の精神

インタビュー 旧職員 足澤至先生に聞く



岩手中高等学校は七十年を迎えたが、昭和二十三年の旧制岩手中学の時代から平成五年まで四十五年間、本校で保健体育の教員をしていた足澤至先生に、勤務していた頃の様子を聞いた。

――先生は本校に長い間勤務していらっしゃったわけですが、その中で特に印象に残っていることは何ですか、教えてください。

足澤　私は中学生のときから高等農林（現在の岩手大学農学部）の頃まで体操をやっていた。体育の先生は何か得意なものを持っている。僕は体操が得意だった。それで、私が顧問だった昭和二十五年から二十八年頃まで高体連で体操部は団体競技で十二回も優勝していた。他にもバレーボール、ラグビー、水泳、アイスホッケーとか色々なクラブが優勝していて、学校の雰囲気は盛り上がっていたね。

――その頃に比べて最近の学校の様子はどのようなものでしたか。

足澤　最初は人数がとても少なかったから、みんなが勉学にも運動にもはげんでいた。文武両道だった。先生たちも自分の学校だと思って一生懸命な先生が多かった。そのうちだんだん生徒数が増えていくと勉学に頑張る生徒と、運動に頑張る生徒に分かれてきた。つまり、それぞれ目的が別々になっていったと思う。

しかし、その中には勉学もやらなければ運動もしない生徒もでてきた。何もしないでいる生徒が出てきて、何をするにも盛り上がりに欠ける雰囲気になった。今もそういう所があるね。やる気のない者やはっきりとした目標のない者は昔にもいたのだけれど、多すぎるようだね。

――これからの岩高に望むことはありますか。

足澤　岩高の魅力をもっと引き出してほしいと思う。ほかにはない。

最後は足澤先生のお得意な釣りの話で盛り上がり、この日のインタビューを終えることが出来た。ここには書ききれないほどのお話を伺ったが紙面の都合で紹介しきれなくて残念だ。教員として岩高の発展に力を尽くして来たばかりでなく、本校のOB（旧十五回生）でもある先生の気持ちは、他の先輩諸兄の思うところでもあろう。それに応えるべく我々も努力していかなければならないと改めて考えさせられた。我々の取材に快く応じていただいた足澤先生、ご協力ありがとうございました。

歴史の重みと生徒会の責任

生徒会長　池端　葵

本校もついに創立七十年となる。大正十五年に三田義正氏が設立して以来七十年、先輩方はこの学校の歴史に数多くの出来事を刻んできてくださった。古くは昭和四年の校旗樹立記念碑を岩手山頂奥宮前に建立したのを始めとして、野球部の甲子園出場等々数えればきりがない。新しい所では、テニス部、ソフトテニス部の活躍等である。このように、七十年目にして岩手中・高等学校（旧制中学校）の歴史を振りかえってみて、私は歴史の重さを感じずにはいられなかった。

先輩方は自分達の力で、今までの歴史を築いてきた。その中心にあったのは生徒の代表たる生徒会役員であり、歴代の生徒会長である。生徒で何か行事を起こそうとするときの生徒会役員、そして生徒会長の責任の重さを今更ながら実感している。歴代の生徒会役員もこの責任の重さを感じながら多くの仕事をこなしてきたのだろう。自らの手で歴史を作っていくことの難しさを生徒会長の仕事から教えてもらった。

さて、今の生徒会の活動はどうだろう。今年の生徒会は数々の変革を試みた。各委員会活動の活発化や自動販売機の交換、修学旅行の復活などである。特に注目してほしいのは修学旅行復活についての活動である。今年の生徒会役員は自分たちの代に行われなくてもよい、いつか復活して後輩たちが楽しくて良い思い出になった、と語ってくれることを楽しみに活動を行った。近いうちに復活することを望んでいる。

最後に、後輩諸君へ一言送りたい。君たちの上に立つ生徒会にはできる限り協力してほしい。それは、巡り巡ってきっと君たちの学校生活を良くしてくれるはずだ。それでは、この学校が更なる発展を遂げることを祈ってペンをおく。

新聞部OBかく語りき

今年度から出版委員会は新聞発行を再開したわけだが十四年ぶりの発行は経験不足、スタッフの確保など創刊並の苦労がある。実際、石桜新聞を創刊した頃の先輩方も大変なご苦労をされたことだろう。そこで旧制中学時代に新聞作りを始めた新聞部OBにその頃のお話をうかがった。

（ご本人の強い希望によりOBとだけ呼ばせていただきます…編集部）

OB　昭和二十二年から初めて、ちょうどその時は旧制中学の最上級生だった。石桜新聞編集室を図書館のところに勝手に作って、今の山口北州印刷社長の山口君達とやっていた。当時はガリ版で作った。そして資金集めのために売ったよ。僕らが終わった頃には学級新聞が流行ったようだ。その後、昭和三十年に新聞コンクールで最優秀賞を取った。自分たちが始めた新聞が賞を取ったのはとても愉快だったよ。新聞作りは放課後だけではやりきれなかったから何日も徹夜したな。当時はコンビニがなかったから食事持参だったし、おかずも作ったし、我ながらよく頑張ったよ。

我々もいい新聞を作ってOBの期待に応えていきたいと思います。ありがとうございました。

古くてよいもの、悪いもの

岩手中高の歴史を刻む校歌

昭和三年、校歌が完成している。作詞は土井晩翠、作曲は山田耕筰という日本の音楽界に名を残した人達の手によるものである。校歌の中に校訓である「積慶」・「重 」・「養正」を歌い込んで欲しいという要望を、土井晩翠は「神と祖国と人道」という言葉に置き換えて歌詞を完成させた。三番の歌詞にある「我が中学」のくだりは岩手中学時代の名残である。またオリジナルは四番の起句の歌詞が曲譜に合わないので、初代校長であった鈴木卓苗校長が自ら手を加えて現在のものになったというエピソードも残っている。

古くなった石桜図書館

石桜図書館は出来てから四十数年経っているが、当時は県下一といわれた施設で、いろいろな人が見学に来たという。四万冊以上の蔵書があったが現在は保存状態が悪く問題がある。一時期閉館が続き、現在は図書館司書と図書委員会が本の管理から掃除まで、その運営に当たっているが新しい図書館施設が求められている。

まとめにかえて――〝七十年〟という年月の重み

岩手中・高等学校は創立者三田義正先生が岩手の、また日本の将来のためには優れた人格形成が必要だと確信し、それには学校を設立することが必要不可欠との信念のもとに、大正十五年設立した学校である。今まで約一万人の卒業生を輩出してきた。県下でも歴史の長い学校である。

この伝統校に入学してきた私たちには、この七十年の歴史の重みを感じる必要があるだろう。しかしそれ以上に考えなければいけないのは、創立者の意志ではないだろうか。私学でありながら本校には創立者の名前がつけられていない。このことから岩手の、そして日本の将来を思った三田義正先生の信念がはっきりと見て取れる。

しかし最近私たちはそれを忘れかけてはいないだろうか。これは足澤先生もおっしゃっていたことだが、はっきりした目的を持っている生徒が少ないということだ。胸に手をあてて考えて欲しいものだ。私たちには今しかできないことがあるはずだ。まずそれに気付くことが先決だろう。

御慶弔引菓子
金山からめ餅本舗 創業安政元年 玉桜堂
盛岡市仙北1丁目14－2 TEL 36－1143 FAX 36－1142
―代表銘菓―
商標登録 元祖 金山からめ餅
商標登録 盛岡の時鐘
商標登録 南部 城下町
商標登録 南部 絵馬
商標登録 またたび饅頭
豆銀糖
雁月（えなさんまんじゅうづき）

KIZUYA
文具、事務用品
材木町2－25
TEL 23-3466(代)
FAX 23-3469

いま本を通して もう一つの世界が生まれる。
第一書店
盛岡市大通二丁目 ☎(53)3355(代)
●サティ店 ●川徳店

スタジオ完備
成人式記念
各種証明写真
フォトMORIOKA
池ノ谷忠正
〒020 盛岡市材木町7の30
電話(0196)22－7457番
カメラ、D.P.E.
卒業記念アルバム

山梨インターハイを終えて

山梨県で開催された全国高等学校総合体育大会に本校からはテニス部とソフトテニス部が出場した。

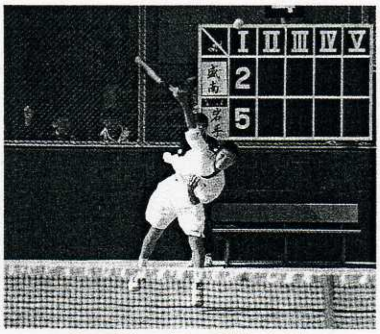
テニス部　全国に通用する力を

▼ダブルス（千葉・千葉）
四—一とリードしていて次のゲームを取れば勝てたが一歩及ばず逆転されてしまった。ダブルスを取れば流れは岩手高側に来たかもしれないが、相手高が地元の応援を受け、波に乗ってしまった。

▼シングルス（菅野）
相手は地元インターハイに向け強化された選手で、全国レベルの力を持っており、接戦に持ち込めば何とかできたのだろうが、実力を出し切れずに敗退した。

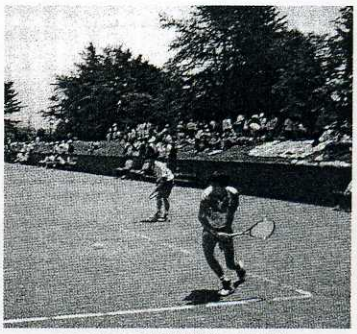
▼シングルス（目時）
団体戦のポイントが決定した後の試合であったが、勝負を捨てることなく自分のベストを出したがあと一ポイントが取れず敗れた。

相手はシードの選手だったが、ゲームの展開の仕方は菅野が優っていたと思う。しかし、ボールの威力に圧され完敗した。



テニス部キャプテン　菅野君（3年）

▼本多監督のコメント
テニス部は全国で通用するチームを目指して日々練習に励んでいる。結果的には負けたけれども、全国に十分に通用する力が着実についてきているのが実感でき、平成十一年岩手インターハイに向けてがんばろうという決意を新たにした。



ソフトテニス部（高総体・北上市）

ソフトテニス部　この経験を次に生かす

ソフトテニスは山梨県石和中央テニスコートで行われた。当日は日差しが強く、気温も高いうえに風が弱かった。

吉田・田村組は、二回戦三重高校（三重県）の西村・三木組と対戦したが、一対四で敗れ、三回戦進出はならなかった。

一ゲーム目はもつれてとられ、二ゲーム目はとったが、あとは押されたままの試合展開となり、流れを変えられぬまま、押し切られてしまった。

県内では、梅原・谷藤組（黒沢尻北）、吉田・佐々木組（一関商工）が一回戦敗退、元田・沢田組（宮古）が二回戦敗退、熊谷・坂倉組（黒沢尻北）が三回戦敗退という結果であった。

▼東監督のコメント
団体で出場できなかった点が悔しかったけれども、個人の選手と、数名の部員を連れていくことによって、全国の力を自分の目に焼き付けてこれたのが、大変よかったと思います。

インターハイでの結果は散々でしたが、ミニ国体、新人戦につながるよう期待しています。

インターハイ以外でも

学校の雰囲気が盛り上がるかどうかは、やはり運動部の活躍に期待するところが大きい。甲子園、国立競技場、花園ラグビー場などなど…そういう大舞台で母校に活躍して欲しいものだ。さて、プロ野球やJリーグはテレビで中継される機会も多く、注目度も高い。我が校の活躍はどうか。

終盤に乱れ、八回コールド

全国高校野球選手権岩手大会において本校は七月十七日、第二回戦から出場し高田高校と対戦した。

当日は蒸し暑い天気だった。試合は中盤までは三対一で緊迫した展開であったが、後半に入ってから打たれ出し、七・八回で七点を取られた。八回裏の攻撃でも点を取れずに終わり最後は十対一の八回コールドで二回戦敗退という結果に終わってしまった。次の大会では甲子園目指して頑張ってもらいたい。

PK戦を落とす

七月二十四日、県営運動公園で行われたサッカー県選手権大会に出場した本校サッカークラブは初戦花泉高を破ったものの、二回戦盛岡南戦は圧倒的に岩高有利という下馬評の中、攻めても攻めてもゴールポストにあたるとかオフサイドの連発といった不運に見舞われ、PK戦の末敗れてしまった。勝てる相手に勝てるメンバーで臨んだだけに三年生にとっては悔いの残る最終試合となってしまった。ベスト8の実力を持っていると思われる三年生だっただけに非常に惜しい。

岩手インターハイに期待

三年後の平成十一年に行われる岩手インターハイ。それに向けて各競技・種目では選手強化を進めているが、我が岩手高校はテニス部。ソフトテニス部が岩手県の高体連から強化指定を受けている。だからこそ、今年のインターハイでの健闘が注目された。両部ともに全国に通用する実力をつけ、母校の名誉のためにいっそう頑張ってほしいものである。とはいうもののテニス部は自校にテニスコートを持っていない。年間の予算のほとんどをコート代に当てている現状でどれだけの強化が可能であろうか。早急な対策が望まれる。

また本校では三年後のインターハイ出場に該当する現在の中学二・三年生が奮闘の日々を送っている。岩手中学の生徒はそのまま岩手高校に進学するため、同じ指導者のもとで競技に専念できる。言ってみれば勝つことを義務づけられていることは名誉なことでもあり、同時に精神的プレッシャーがかかるのも確かであるが、岩中からインターハイで優勝するような選手を輩出することも、このような試練があってこそ初めて得られる栄誉ではなかろうか。中高一貫教育の特色をいかし、他の種目でもすばらしい成績を残すことが出来れば母校の将来も輝かしいものになるだろう。

問われる応援の姿勢

勝てないから声を出さないのか、声の出せないような学校だから勝てないのかわからないが、いずれにしても野球応援の時のふがいなさは言葉で言い尽くせない。応援団幹部のリードに応える生徒がどれだけいただろうか。バス九台で乗り込んだ応援団が集団念仏修行の一団だったとは…。

野球の応援に限らず、高総体の開会式・卒業式での校歌斉唱も生徒の覇気が感じられない。応援など他人事だと思っているのかも知れない。それならば自分の事はちゃんとしているのだろうか。自分の事もいい加減に済ませてしまっているとすれば、それはつまらないことだ。

運動部ばかりでなく、文化部やそのほかの事でがんばっている者を応援するということは、自分も負けられないと思う事でもある。つまり、自分が目的を持ってがんばっているからこそ他人を応援できるのだ。逆に言えば自分が何もしていないから、他人のことも応援できないのである。声を出すことが恥ずかしいのではない。声を出せないことが恥ずかしいのだ、ということに気づくべきだ。それは一人一人の意識と自覚とプライドの問題である。

インターハイの思い出

保健体育科　松田　圭二

今年もテニス部、ソフトテニス部がインターハイに出場しました。選手の皆さんは精一杯努力したことだと思います。また両監督の先生方には日々の練習ご苦労様です。これも選手の皆さんの努力の賜物だと思いますが、努力が報われることは大変嬉しいものです。

そもそも私が柔道を始めたきっかけは、兄の影響によるところが大きいのですが、中学の入部当初は例に漏れず組むと同時に投げられる有様でした。高校（八戸市光星学院）に入学し柔道部に入部すると、改めて自分の体力のなさを自覚させられ、中学時代との練習の違いを実感させられました。

それからは辛く厳しい練習と合宿の日々でした。埼玉県の城西大学で行った遠征合宿や高三の夏期合宿は特に厳しかった思い出があります。高三の時、私は高総体で優勝しインターハイの切符を手にすることができました。鹿児島開催だったので、暑さ対策として夏の暑い盛りに道場を締め切り、窓に目張りをし、その上ストーブを炊いて練習した事を覚えています。今になるとそれが効果的かどうかは別にして精神的効果は多分にあったと思います。このような厳しい練習や顧問の先生方の指導、部員の協力があって私はインターハイ出場ができたのだ思います。結果は一敗一分けでしたが、インターハイ出場を通して得た事を今後の指導に役立てていければと思います。

また我が柔道部も上位入賞をめざし、いつかはインターハイと思いながら、日々佐藤先生と共に指導に打ち込んでいます。

最後になりますがテニス・ソフトテニス部の両監督、三年後の岩手インターハイでは上位入賞をめざして下さい。そして各部の諸君もそれに続くように努力を怠らないで下さい。

祝.創立70周年

営業のごあんない
●路線バス　●貸切バス　●観光船
関連事業
●旅行業　●ホテル業　●ドライブイン等
陸中海岸・八幡平の観光と
東京・仙台・北東北をネットするハイウェイバス
岩手県北バス
本社　盛岡市盛岡駅前北通5-1　0196-54-5811
取締役会長　八重樫　金十郎（旧11回生）
代表取締役社長　八重樫　昌　宏（新4回生）
専務取締役　三　船　博　敏（新8回生）

＊肉のデパート＊
まる岩
盛岡市上田1丁目7－11
TEL　24－6565

ご家庭に健康をお届けして60年
牛乳
岩手牛乳
盛岡市上厨川柳原5－8
TEL 57－7171（代表）

お食事＆喫茶
ピエロ
お持帰り弁当＆お惣菜
デリカショップ
ピエロ
盛岡市津志田12-11-3
☎38－6986

臥薪嘗胆はもう古い？

エアコンの効いた教室で快適夏期講習

今年からの特進コース新設にともない、恒例の夏期合宿講習は試験的に高一で実施された。これは早い時期の進学意識や基礎学力向上を目的とし、会場も校内から設備の整った宿泊研修施設に移した。高三の夏期講習も新たに二ターム制や代々木サテラインを導入、会場は映像・冷房施設の関係から、校外の施設を併用した。次年度もこの方法を継続するかどうか、高二の講習はどうするか、などの課題が残っている。

個人添削指導を受ける(高1合宿講習)

有意義な五日間

一学年では七月二十二日から二十六日までの五日間、盛岡市みたけの岩手青少年会館で合宿講習を行った。合宿には特進クラス十七名と選抜クラスから二名の計十九名が参加し、午前・午後・夜間の三部に分けて国語・数学・英語の三教科を学習した。合宿中は、午前中に英語・数学をそれぞれ八十分の講義を受け、午後は添削授業が一時から四時までの三時間行われた。夕食をはさんで七時半から約二時間、国語の添削授業を受けた。

合宿施設となった青少年会館は、各部屋に冷房が完備されていて、すばらしい学習環境であった。そのような中で講義を受け、参加者は有意義な五日間を過ごすことが出来た。

しめやかに創立者墓参

八月十三日に学校創立者三田義正先生の墓参が行われ生徒・教職員約三十名が、久昌寺を訪れた。

学校長と生徒を代表して太田直樹君(二A)が花を上げて焼香し、それに続いて参列者が拝礼した。その後で校長先生が「三田義正先生がいなければ、岩手中・高等学校がなかったように、みなさんも祖先がいなければこの世に生を受けられなかったのです。ですから祖先の墓参りは必ず行くようにしてください。」という訓話をし解散した。

三田義正先生は一八六一年に南部藩士三田義魏とその妻キヨの長男として岩手郡仁王村赤川に誕生し、以後人材育成と果断の事業家としてたくさんの大役をこなし、一九二六(大正十五)年に岩手中学を創立した。一九三五(昭和十)年、七五歳でその生涯を終えた。

校長先生の言葉の通り、三田義正先生がいなければ岩手中・高等学校はなかった。私たちは祖先の事に関心を持ち、大切にしてゆかなければならないと思う。

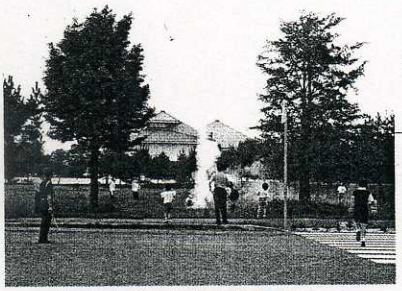
ユニーク浮上実験を披露

物理部「科学の祭典」

七月二十七日から三十一日まで、東京の科学技術会館で行われた「青少年のための科学の祭典・全国大会」に本校物理部から二年四人、三年三人、計七人が参加した。

物理部ではこの大会で百以上たるブースの中に超伝導の実験・うず電流による磁石浮上の実験・音波浮上の実験の3つの実験を「ユニークな浮上実験　これが空中浮上だ！」という題目でデモンストレーションを行った。

大会期間中は連日、気温が三十度を越す猛暑にもかかわらず、毎日約一万人の学習環境であった。そのような中で講義を受け、参加者は有意義な五日間を過ごすことが出来た。



白煙を残して打ち上げられたモデルロケット

宇宙へのアプローチ

化学部　モデルロケット打ち上げ

宇宙開発展に協力参加

八月四日から盛岡市子供科学館で開催されている「宇宙開発(君も宇宙へ)展」に岩高化学部は協力参加している。開会式当日もモデルロケットの打ち上げがおこなわれ、朝から準備に取り組んでいた部員たちの表情は真剣そのものであった。開会式が終わるとすぐにロケットの打ち上げとなった。会場に詰めかけた観客も声を合わせてカウントをとり「5、4、3、2、1、0！」と同時に青空に向かってロケットが放たれた。一瞬の出来事であったがロケットは空高く打ち上げられ会場の人達に感動を与えてくれた。

同展は九月二十九日まで開催され、本校石桜祭期日以外の第二・四土曜日と日曜日に打ち上げが行われる予定。同部のモデルロケットは石桜祭会期中、本校校庭から打ち上げられる。

生談人相

公務員になるには

僕は将来、公務員の事務関係の仕事につきたいです。公務員は国家公務員と地方公務員に分かれていて、主に行政事務や学校事務等、たくさんの仕事があります。また、I種、II種、III種の公務員採用試験があり、年齢や仕事別に試験を受けて合格すれば公務員になれると聞きました。

しかし、たくさんの仕事があり、収入も安定している公務員に今、たくさんの人たちが挑戦しています。大人も大学生もいます。公務員になるには具体的にどのようなことをすればいいのですか？

高一　K・S

普段の生活から自覚を持っていることが大切

現在のような経済状況のなかで公務員志望者は急増しています。K・S君のいうようにいろいろな機関や職種がありますが、大きく分けると国家公務員と地方公務員の二つです。その中で高校卒業見込みの者が受験できるのは初級(国家公務員試験の場合はIII種)試験です。それより上級の試験は年齢制限があり高校生では受験できません。試験内容は職種によって異なりますが、基本的には教養試験、適性試験、作文、面接があります。教養試験は高校三年間で学ぶ教科の内容が問われる一般教養と数理的な思考力を見る一般知能に分けてあります。適性検査は事務職員としての正確さと速さを見ます。面接は人物の評価です。

では公務員試験にパスし採用されるために今何をすべきか――平素の授業を大切にすることと普段の生活をより充実させることだと思います。

進路相談室

体験記

緑の募金に参加して

2年E組　間宮　秀文

この前、人通りの多い川徳の前で緑の募金に参加しました。この緑の募金というのは、最近失われつつある緑を守り育てるための募金運動です。僕たちはその活動に岩高の代表として協力したのですが、実際やってみると、募金活動というのはなかなか大変なもので、黙っていると誰も来てくれません。声を出さないと誰も募金してくれない、そう分かっていても緊張のため初めは声を出すことが出来ませんでしたが、岩高を代表して活動しているのだという使命感が、僕をふっきれさせ、次の瞬間、大声で「募金をお願いします。」と叫んでいました。

川徳というのは、人通りが本当に多いのでたくさんの人が僕たちの前を通っていきます。その通る人達に、僕らが「募金お願いします」と声をかけると、うつむいて違う方を見たり、募金をするかしないか迷って、あやまって通り過ぎる人がいました。もちろん快く募金してくれた方もたくさんいましたが、うつむくような人を見て、募金の呼びかけというのは、どこか強制的なものが合って、募金をしない人に罪悪感を与えているのではないかと考えました。実際、自分も募金活動をしている人の前を素通りすると、何か悪いことをしたのではないかと思います。そのように募金のあり方を考えるなんて今までありませんでした。

募金する側ではそんな事を考えもしなかったのに、募金を呼びかける側になって初めてそんな経験をしました。他にも、募金をしてくれた人から募金で人を多く呼ぶコツや、昔の岩高がどうだったかなどを教えて頂きました。

人見知りする僕にとって見ならぬ人とこうして話をしたことはとても貴重な経験でした。そして、地球を守るという仕事に参加できて大変うれしく思います。

募金に協力してくれた方と(川徳前にて)

小山田歯科医院
月～金・AM9時30から
PM6時まで
土・AM9時30～PM1時
盛岡市駅前通8－11－3F
(代)(0196)25－1744
FAX(0196)25－1723

内科・循環器科・小児科
大平医院
◎診療時間
平日　9:00～12:00
　　15:00～18:00
土曜　9:00～13:00
休診　日曜・祭日
往診に応ず
盛岡市梨木町2-2(岩高ウラ)
TEL0196
51-5077

小田島耳鼻科医院
〈休診〉　日曜・祭日
盛岡市上田1丁目6－5
(山田線踏切側)
TEL(0196)
22－0879

学校法人　久保学園
菜園調理師専門学校
〈調理高度技術学科〉
盛岡社会福祉専門学校
〈介護福祉学科・福祉情報学科〉
〒020　盛岡市菜園二丁目四番十九号
電話(〇一九六)二三－六一七一(代)

クラブ紹介 第3回 バスケットボール部

第3回クラブ紹介はバスケットボール部です。夏休み返上で練習に励む部員たちの、熱気がこもる体育館をのぞいてきました。

チーム一丸となって 県大会出場をめざす

夏の暑い中も練習を頑張るバスケットボール部は、三年生の先輩方が引退して新しく一、二年生主体のチームとなった。今年は二年生が六人と少ないが、岡田新キャプテンが中心となり、みんなが協力して頑張っている。去年二月に入部した一八四cmのセンター宮台は、だんだん実力をつけてきているので新人戦での活躍が期待されている。

新チームになって、新人戦上位入賞をめざす

顧問の橘先生

練習はほとんど休みはないそうです。練習時間は放課後三時半から七時までととてもハードで、日曜日は朝九時からやっているそうです。練習の様子は一人一人が声を出して、苦しい時も互いに励まし合いながら、一つ一つのプレーに対して全力で練習している。新チームとなってから新しくウエイトトレーニングと、シューティング百本を取り入れ、A・Bチームに分けて毎日交互に練習をしているそうです。

新チームになってからの目標は新人戦での上位への進出、そして県大会への出場だそうです。引退した三年生は高総体では一点差で盛岡工業に敗れ、惜しくも県大会には出場できませんでした。その悔しい思いを胸に、部員たちは県大会出場へ向かって、燃えて練習している。

バスケットボール部の顧問は私達に体育を教える橘先生です。先生は時には厳しく、時には優しく、厳しい練習に励む部員たちを見守ってくれている。先生の方針はチーム一丸となりみんなで協力することと、どんなプレーでも最後まで諦めないことだそうです。

緊張感の漲る練習風景

最後に、今度の新人戦での上位進出と、先輩方が果たせなかった県大会への出場を応援し、バスケットボール部のクラブ紹介を終わりたいと思います。

部・員・名・簿

三年　晴山力　松岡仁　工藤進介　浅沼慶紀　阿部洋　小笠原清　佐藤鉄平　村田猛

二年　伊藤正敏　坂本頼彦　横田優介　宮台貴久　藤原真澄　岡田豊

一年　長濱生三　佐々木康弘　橋本孝之輔　高橋拓也　村井隆治　宮野佳佑　金澤隼人　佐藤和行　伊藤睦仁　小原裕之　櫻田伸介　沼田崇　長田大　石田寛　高橋亮　長澤優樹　小林亮平　若狭和久　高橋景大　山火進矢

岩手県民体育大会

岩手県代表をめざして テニス部・ソフトテニス部ミニ国体へ

七月五日～八月四日にかけて岩手県民体育大会がそれぞれの競技の日程で行われた。国体予選となるこの大会には本校から十二のクラブが参加した。種目によってはさらにミニ国体を勝ち抜かなければならないが、岩手県代表として国体出場をかけて選手たちは健闘した。

試合結果

・卓球部
七月六日
水沢市体育館
三年男子シングルス
阿部（岩手）0―2 佐々木（関工）
佐藤（岩手）1―2 大平（福岡）

本校から出場した三年の阿部・佐藤（進）はともに一回戦で敗退してしまった。（顧問 小畑）

・ソフトテニス部
七月八・九日
運動公園テニスコート
予選トーナメント
ベスト8 旛福・平野
ベスト16 駒井・藤原
準決勝リーグB
1 吉田・田村
決勝リーグ
2 吉田・田村
吉田・田村東北ミニ国体出場。

黒北の勢力が思いのほか強く岩手のレベル低下が著しかった。新人戦等に向けて更にがんばっていきたい。有力な中学生を本校入学に向けて働きかけを行わなければいけないと感じた。（顧問 東）

・柔道
七月十三日
一関文化センター体育館
軽量級
柾谷（二年）
一回戦 僅差勝ち
二回戦 一本負け
軽重量級
一回戦
柿木（一年） 一本勝ち
平野（三年） 僅差負け
石川（二年） 一本負け
二回戦
柿木 優勢負け
重量級
一回戦
堀（一年） 一本勝ち
及川（三年） 一本勝ち
二回戦
堀 一本負け
及川 一本負け

あまり成績がよくなかったのでこんどの試合では、好成績を残せるようにがんばります。（二年 石川）

・剣道部
七月六～七日
県営武道館
個人戦形式
先鋒の部 千葉 一回戦出場
次鋒の部 沼田 三回戦進出
中堅の部 片岡 一回戦出場
副将の部 西國 三回戦出場
大将の部 月永 三回戦出場

・ラグビー部
七月十二～十四日
黒沢尻工業高校グランド
一回戦
岩手 0（0―34、0―48）82 宮古
敗者戦
岩手 17（5―57、12―40）97 黒北
ABブロック入れ替え戦
岩手 5（0―3、5―10）13 水沢

力不足（実力の差）（顧問 高橋）

・バレーボール部
七月十三日
盛岡北高等学校
岩手 0（3―15、4―15）2 大迫

対戦はシード高の大迫高。試合前から予想していたものの、スパイク、レシーブ、ブロックがほぼ完璧で、その上スピードのある多彩な攻撃のまえに為す術もなく2―0のストレートで敗れてしまった。

来年は互角に戦えるように更なる努力をかさねがんばりたい。（顧問 伊藤）

・ハンドボール部
七月十日
岩手大学グランド
一回戦
岩手 12―30 花巻北

みんな後半にはバテていたので新人戦に向けて頑張りたい。（二年 菊池）

・山岳部
七月六～七日
北上市 展勝地 牛形山
岩手A 総合八位
岩手B 総合十位
岩手C 総合二十位

総合の一～七位まではインターハイの強化指定校である。その中での八位はよい結果であると思われる。（顧問 竹本）

・テニス部
七月十一～十三日
盛岡市営太田コート
県営テニスコート
シングルス
優勝 菅野敦
ベスト8 目時卓哉 高橋直樹
（菅野はミニ国体出場）
ダブルス
ベスト4 千葉崇・菅野
ベスト8 松尾・水上 目時・千葉淳

菅野は山形県天童市で行われる東北ミニ国体に出場し、広島国体の出場権獲得に臨む。東北からは三県の出場枠があるが、優勝候補である福島以外の五県の実力は伯仲しており、二位になるか六位になるかという混戦が予想される。（顧問 本多）

・サッカークラブ
七月十二日
盛岡商業高校グランド
一回戦 岩手 2―1 平舘
二回戦 岩手 6―3 釜石工
三回戦 岩手 0―4 盛岡商
ベスト16

ベスト8をかけた盛商戦は私たちサッカークラブにとって歴史に残る試合となった。全国でも高レベルである盛商相手に前半三点を失ったものの後半は失点一と敗れたものの実に実りのある内容であった。創部以来最強と思われる三年生の活躍によりベスト16に入れたのは彼らの努力のたまものだ。（顧問 中山）

編集後記

私は夏休み返上でがんばった。そのため現在夏バテでとてもだるいです。
出版委員長　中村　史幸

委員会では14年ぶりに新聞を発行しました。今後も続けて行きたいと思います。
出版副委員長　和泉　博之

焦げて図太い向日葵と遊びゆく友を見ながら制作に取り組みました。
2A　武蔵　力

今回の新聞は書くのにとても苦労しました。これからもがんばりたいです。
2B　横田　優介

夏休み明けすぐに仕事を頼まれ、テスト前日だというのにとても大変だった。
2C　佐野　直哉

学校で記事を書き、提出したがそれが没になったときには腐れてしまった。
2D　田鎖　英

今回の新聞で岩手高校の歴史について書いて自分なりに上手に書けて良かった。
2F　藤尾　恵介

とてもつらい日々だった。出版委員会でこんなに苦労するとは思わなかった。
2F　竹花　進悟

意味の分からないところもあると思いますが、一生懸命がんばります。
1A　佐藤　真一

久昌寺に行ったり原稿を書いたりと大変でしたがいい勉強になったと思う。
1B　西國　礼十

いろいろと人生相談やインターハイのインタビュー等の記事で大変だった。
1B　齋藤　和彦

編集のためというわけではないのですが、山梨に行って来ました。
1E　伊藤　純

自分の書いた原稿を読んだ人がいい記事だと思ってくれればいいと思う。
1F　千葉　直輝

今回、新聞の発行に関わってみて、改めて日本語の難しさを実感した。
1F　小野　光陽

みんな泳いだり、釣りをしたりして帰りはすごい顔をして寝ていた。
1甲　吉田　裕隆

顧問　小畑　勝行
和田健一郎
五日市　悌

創立70年記念特集号の発行にあたった委員（図書館にて）